

令和7年度 自己評価及び学校関係者評価書

令和8年2月3日  
函館市立上湯川小学校

1 本年度の重点教育目標

気づく子 動く子 比べる子 ※◎を特に重点として ◎気づく～友達や周囲の人々の気持ちを考え、様子に気づき行動できる ○動く～友達と体を動かして遊んだり、目標をもって運動を楽しんだりできる ◎比べる～ 学ぶ意欲をもち、既習事項や友達の考え、各種資料を比べながら、考えを深め、広げることができる。
---

2 本年度の取組の重点

・心をつくる「気づく」 ・体をつくる「動く」 ・学びをつくる「比べる」 ・挑戦 ・自分事 ・一人一人の教育的ニーズや発達の段階に応じた支援の充実 ・子どもの健康と安全の重視
---

3 自己評価結果に対する学校関係者評価

分野	評価項目 保～保護者アンケート 児～児童アンケート 教～教職員アンケート(学校評価)での%	自己評価結果		学校関係者評価		
		達成 状況	改善の方策	自己 評価 の適切 さ	改善 の 方 策 の 評 価	主な意見 (改善策など)
気づく	友達や周囲の人々の気持ちを考え様子に気づき行動する	a		A	A	
動く	友達と体を動かして遊んだり目標をもって運動を楽しんだりする	a		A	A	
比べる	学ぶ意欲をもち既習事項や友達の考えや各種資料を比べながら考えを深め広げる	a		A	A	
(教務)	自分から進んで、宿題や家庭学習に取り組む	a		A	A	
(研究)	毎日楽しそうに学習に取り組む	a		A	A	
(生指)	自分から元気よく挨拶をする	a		A	A	
(保体)	自分の体のことを知り健康や安全に気をつけて過ごす	a		A	A	
自分事 挑戦	自分の生活をよくするため自分から何かを変えようとする意識をもつ	b	・小さな成功体験を可視化する等、ほめる文化の更なる醸成により、自己効力感を高められるようにする。	A	A	評価及び方策は適切であり、そのとおり進めて欲しい。
全般	自らが設定した目標に迫ろうとする姿が見られたか	a		A	A	
(必要 課題)	学校における業務改善に向けた取組を進めることができたか。	a		A	a	
(必要 課題)	コミュニティースクールの取組を行い、家庭・地域と一体となった学校運営を推進できたか。	a		A	a	

■ 自己評価達成状況

a	ほぼ達成できた (8割以上)
b	概ね達成できた (6割以上)
c	十分ではない (4割以上)
d	達成できなかった (4割未満)

■ 自己評価の適切さ及び改善の方策の適切さにかかる評価

A	自己評価及び改善策は適切であり、取組を進めるべきである。
B	自己評価及び改善策は適切であるが、若干の修正は必要である。
C	自己評価及び改善策の方向性はよいが、若干の修正が必要である。
D	自己評価及び改善策を再度検討する必要がある。